

第6回池田町義務教育のあり方検討委員会 会議録（概要）

日 時	令和7年8月18日（月） 午後6時～午後7時30分
場 所	池田町役場2階 大会議室
出席委員	委員長 池田園小運営協議会代表 梅牧 力 副委員長 高瀬中運営協議会代表 宮本 和紀 池田小学校 PTA 代表 皆川 瑞穂、会染小学校 PTA 代表 栗林 絵美 高瀬中学校 PTA 代表 藤井 周二 池田保育園保護者代表 貝梅 直輝 自治会協議会副会長 中山 廣忠 池田小学校長 工藤 美恵、会染小学校長 池内 博 高瀬中学校長 原 毅 識見を有する者 下川 威 識見を有する者 丸山 史子 公募による者 佐藤 豊、平林 利香子 池田町社会福祉協議会会長 中嶋 一光
欠席委員	会染園小運営協議会代表 櫻井 康人 自治会協議会会長 常盤井 智美 識見を有する者 村瀬 公胤 公募による者 丸山 尚子
職員派遣 事務局	美麻小中学校校長 鈴木 康貴、八坂小中学校校長 永田 治 教育長 山崎 晃、学校保育課長 井口 博貴 学校保育課学校保育係長 高木 さおり 学校保育課学校保育係 丸山 智史
書 記	学校保育課学校保育係長
傍 聴	8人

1 開会

2 委員長あいさつ

3 教育長あいさつ

4 義務教育学校の紹介

（1）美麻小中学校

美麻小中学校の紹介を美麻小中学校校長より説明。

（2）八坂小中学校

八坂小中学校の紹介を八坂小中学校校長より説明

（中山委員）

昔から小学校の低学年は人間としての基礎を養うための過程だと思っていて、その事について先生達が思っていることとは違うかもしれないが、人間の一番大事なところはその基礎

が出来ているか出来ていないかだと思っている。要はその基礎が元で子供たちが色々と考え関係を作り構築することが義務教育の発端だと思っているので、そのことに取り組んでいる話を聞けて嬉しい。

(美麻小中学校校長)

美麻小中学校は義務教育学校になった時から作られている形だと思っている。年が過ぎたから形が変わるものではなく、ベースとして大事なものであるということで本校ガイドラインというものがあって、色々な学校で大事にしていることが書かれており、私もとても大事だと思っている。また、これに沿って、総合的な学習の時間や生活科の部分を大事にして、それぞれの学年で地域との関わりをどのようにしていくのかが、ベースになっているのでこれからも大事にしたい。

(梅牧委員長)

美麻小中学校はステップ期から教科担任制にしているが、小中で言えば中学の先生が専科でやっていく上で難しさというかそのあたりを聞きたいのと、八坂小中学校の場合、小学校と中学校が離れているので教科担任制を進める上での障害になっている部分と、メリットを教えてください。

(美麻小中学校校長)

義務教育学校の先生は基本的に小学校、中学校の免許を持っていないといけないという法的なものがある。しかし、実際の人事ではそこまできちんと全部の免許を持っている人が集まるかという点で集まらないので、本校でも小学校の免許しかない先生や中学校しかない先生もいるので、担任をお願いするにあたって、小学校の免許がない人に小学校の担任は出来ないで配置が難しい。それから中学校の先生が小学校に専科で来るだけではなく、小学校の担任の先生が中学校で教科も教えている。先生ごとで負担が変わってくるので、対策を進める。

(八坂小中学校校長)

八坂小中学校は距離的な問題と授業の始まりの時間が揃っていないので、スライドがなかなか組みづらく困っているので色々な検討が必要だと思っている。

(皆川委員)

教科の先生がいない状態になった場合、色々な形で補うという説明をしていたが、それは例えば子供たちにこういう影響をしているなど感じたことはあるのか。

(美麻小中学校校長)

美麻小中学校は家庭科と美術の教員がいないので、美術は市の方をお願いして専科の先生が来てもらいカバーしている。家庭科についてはスクールパートナーズの方が入りカバーしている。苦しいところを地域の方たちで何とか助けてもらっているのですが、そのまま子供たちがダイレクトにマイナスに感じていることはなく、学校を維持しているとは思いますが教員不足について人事のところでは何とかしたいと思っている。

(八坂小中学校校長)

八坂小中学校の後期課程については、今年は技術家庭科の職員がいないので、八坂小中学校と美麻小中学校を掛け持っている技術の専門の先生が教えている。それ以外の教科については問題なく授業を行っている。ただ、前期課程の先生の数が減り英語の先生がいなくなってしまったので学級担任が英語の先生を兼ねている。5教科の部分で欠けることがないように準備もしているので、今のところは大丈夫かなと思っている。

(宮本副委員長)

八坂小中学校は人数が減少したことで小学校と中学校の校舎が別々のまま義務教育学校

になったと思うが、小中義務教育学校にする必要があったのかについて教えてほしい。

(八坂小中学校校長)

義務教育学校にするかどうかの検討が行われた時に、私はいなかったもので、正確かどうか分かりませんが、小中一貫校と義務教育学校はその職員の動きの制限がなくなることを除くとそんなに変わらないと思っている。例えば今、小学校5年生の担任をしている職員を来年は後期課程の8年生にしても全然問題ないので、色々な事で幅が広がると思っている。我々はそこをメリットだと思っていて、真剣に考え確立していかなければいけないが試行錯誤の必要があると思っている。

(宮本副委員長)

他の学校から異動した中で八坂小中学校に赴任して何を感じたか聞きたい。

(八坂小中学校校長)

私の前任校は300人近い学校でそこから八坂小中学校へ赴任したので、少人数の学校ならではのシステムがあるものだと感じた。子供たちも自然に囲まれ交流も楽しみながら、先輩としての自覚を持ち学校生活を過ごす機会があるのはとても良いことだと思っている。

(平林委員)

義務教育学校の校長先生をしていて、ここの学校に通わせたいということで移住している家庭が年々増えていることや肌で感じるものがあれば教えてほしいのと、あとスクールパートナーズの方が授業に関わっているという印象だが、そのスクールパートナーズの方は学校目標等に接することや学びの場を教員の方と同じ考えで、子どもに接しているのかが気になったので教えてほしい。

(美麻小中学校校長)

移住に関しては義務教育学校だから来ているというのは分からないが、コーディネーターの一人が美麻地区の移住に関しても仕事をしていて、色々な移住相談会などに行って話をする中で、教育移住という形で美麻小中学校の良さや地域の方が関わっているから子どもを育てたい、だから美麻に行きたいという話は聞いたことがある。企業の誘致も一つの手だとは思いますが、教育移住ということで子どもたちのその学びの環境をどう整えていくかを地域としては大事だと感じている。それからスクールパートナーズについて、本校の共同の学びはどういうものかということも伝えながら、すぐに子どもたちに答えを教えることはなく授業を行っている。子どもたちがどう考えたかを伏せておいて、保護者や地域の方に一緒にその授業をやってもらい、子供たちが色々な考えをしていることを実感してもらおう取り組みをしている。

(佐藤委員)

接している児童たちを見るとやはり地元の方や保護者の方たちが協力して対応していると感じた。八坂小中学校の場合、立地条件もありとても地域と密着されながら小中学校関係の運用をしているなど感じた。それと今の状態になってから何年か経っているということで、おそらく先生達が上手く脈々と築き上げてきたものだと感じ、又今後の教員の確保をどう実施するかということが引き続き課題になると感じた。非常に参考になったので、私もまたこの委員会の中で色々検討していきたいと思っている。

6 連絡 第7回検討委員会は9月4日(木)18時より池田町役場大会議室で開催する。

第8回検討委員会は11月26日(水)18時より池田町役場大会議室で開催する。

*必要に応じて臨時で委員会を設ける場合がある。

7 閉会